



# ほりイ スクールソーシャルワーカーだより 53

こと ほりかわしげとし

授業の邪魔になったり、席を立ったり…

多動・衝動性が強い子はみんなそう。

けど…つい、イライラしてしまいます。

## ☆ わかっているつもり の巻 ☆

したほうが良い事より、してはいけない事に目を向けることが大切。その視点で何をしてあげるかではなく、何をしないでおいまあげるかを考えます。

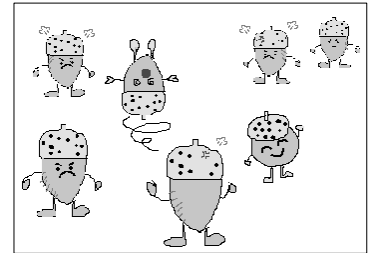
おとなの声かけでADHDが治るでしょうか。答えは「いいえ」ADHDは特性であって、病気ではないのです。ですから『治る』という言葉から連想する成果は、得られないのです。ただし、日々の声かけや訓練によって本人や周りが困らないように変わることは期待できます。

☆

では具体的に、こういったことをしてはいけないのでしょうか。

問題行動を強く叱る事、イライラした気持ちを持ったまま話しかけない事です。

ADHD特性のある子どもは、批判される事や、頭ごなしに押さえつけられる事にとっても敏感です。そのため高圧的に注意されると、その中身ではなく、その物腰に反応してしまい、売り言葉に買い言葉、言い合いになってしまうケースが非常に多いのです。



★

「あなただけ特別扱いは出来ません。それがあなたのためだから…」ADHDの子どもは、とても傷つきやすい傾向もあります。相手をイライラさせている事に気付くと、自分が嫌われていると受け取り、ますます反発して問題行動を取る事もあります。

問題行動に注目せず、子どもの関心をそらすように話しかけるのも方法の一つです。もしかすると、かまっても欲しくても問題行動を起こしているのかも知れません。つまり【問題行動 ⇒ 自分だけ叱ってもらえる ⇒ 自分が相手を独占出来ている】この流れに満足する子もいるようです。

仕事の邪魔を「後でね」と軽く受け流して続ける、気にはなっても誰かの迷惑にならない、危なくない事は無視するなど、時と場合によりますが「わたしはあなただけのものではないのよ」と伝わるような扱いが出来ないでしょうか。

☆☆

学校でも家庭でも同じ事です。でも、家庭では自分だけに注意を向けてもらえる場面が多いから、問題行動は少ないようです。兄弟と比べてはいけないのは、そこに理由があるようです。

力を持つということは、使うべき時に、使うことをためらわないと言う事である